

墨蹟と水墨画を楽しむ



[企画展 Museum Collection Exhibition]

# 禅僧の交流

# en and the Art of Cultural Exchange

An Invitation to Calligraphy and Ink Painting

2018年9月1日(土) ▶ 10月8日(月・祝)

根津美術館 NEZU MUSEUM <http://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館  
NEZU MUSEUM



古来、日本と中国の僧侶たちの間には往来がありましたが、中世の禅僧間においてはより活発な交流が行われました。栄西や円爾といった著名な禅僧をはじめ、この時期に海を渡った日本人留学僧は200人以上にもなります。

その様子は、師から弟子へと書き与えられたものなど、彼らが書いた墨蹟からも知ることができます。中でも漢文体で書かれた手紙を意味する尺牘には、中国留学中に知り合った禅僧どうしの友情や、師弟間の絆の強さが記されています。個性豊かで独特な書風が見られる墨蹟は、高僧の遺徳がしのばれるものとして大切にされ、現在まで伝えられました。

絵に施された賛からも禅僧たちの親交がわかります。日本の禅僧は、中国の文人にならって文化サークルを形成して集い、グループに属する僧たちで詩を詠み交わしたのです。そして仲間とともに水墨画を鑑賞して賛を付し、詩と絵とによる素晴らしい作品を誕生させています。また禅僧には、高名な雪舟のように絵画制作を専門とした人がおり、画僧と呼ばれました。彼らの中には、画技の習得のため足利将軍家御用の同朋衆のもとで修業を行った者もいました。

本展では、禅僧たちの交流の中で生まれた墨蹟と水墨画の名品約50件をお楽しみいただきます。

・因陀羅と楚石梵琦



国宝 布袋蔣摩訶問答図  
因陀羅筆 楚石梵琦賛  
1幅 紙本墨画・墨書  
中国・元時代 14世紀  
根津美術館蔵

蔣摩訶が、布袋和尚は弥勒菩薩の化身だと確信を得た際の情景を絵画化したもの。禅僧でもあった因陀羅は、墨の濃淡をいかした独特な画風で描いている。賛者の楚石梵琦は、当時の中国国内外から絶大な支持を得ていた禅僧で、日本からも多くの修行僧がそのもとに集った。

・禅僧たちの語らい



詩と絵からなる掛幅は、詩画軸とも呼ばれる。大岳周崇をはじめ、12人もの禅僧がこの絵を鑑賞し、詩を寄せた。室町時代の禅僧たちが楽しんだ文化サークルの様子がうかがえる。静かな山あいの水辺にひっそりと建つ茅屋。この絵には、彼らにとって日常を離れた理想の情景が描かれている。

重要文化財  
江天遠意図  
伝周文筆 大岳周崇ほか賛  
1幅 紙本墨画淡彩  
日本・室町時代 15世紀  
根津美術館蔵



・師をしのぶ弟子たち

重要文化財  
劍門妙深墨蹟 尺牘  
1幅 彩箋墨書  
中国・南宋時代 淳祐9年(1249)  
常盤山文庫蔵

中国僧・劍門妙深が京都・東福寺開山の円爾に宛てた手紙。共通の師である無準師範の訃報とその遺言を記している。円爾が帰国してからも、師弟間の交流が続いていたことが窺える。



・仏法の継承

重要文化財  
無学祖元墨蹟 附衣偈断簡  
1幅 紙本墨書  
日本・鎌倉時代  
弘安3年(1280)  
根津美術館蔵

中国僧・無学祖元は、北条時宗の招きで来日し、鎌倉・建長寺の住持をつとめ円覚寺の開山となった。本作は無学が、上野・長楽寺の住持であった一翁院豪に、嗣法の証として法衣を授け、それを偈(詩)に詠んで書き与えたもの。

・禅僧たちも愛でたやきもの



青磁浮牡丹尊式瓶  
1口 龍泉窯 施釉陶器  
中国・南宋～元時代 13-14世紀  
根津美術館蔵

浮牡丹文が特徴の瓶で、13～14世紀頃に中国・龍泉窯で焼かれたもの。鎌倉時代に創建された金沢八景の称名寺や足利の鑊阿寺などには大型の類品が伝世している。

・若き日の雪舟



有名な画僧雪舟が、改号前に描いた作品。雪舟は後の画師に多大な影響を与えた。画面手前には大きな岩や松下に建物が描かれ、水面を隔てて遠山が配された典型的な山水図である。

さんすいず せっしゅうとうよう  
山水図 拙宗等揚筆  
1幅 紙本墨画淡彩  
日本・室町時代 15世紀  
根津美術館蔵 小林中氏寄贈

＜海を渡る僧侶たち＞

古来、日中間には人々の往来があり、遣唐使廃止後もその交流は続いていました。禅僧たちの主な航海のルートは、九州・博多と中国・明州（今の寧波）とをそれぞれ発着地として東シナ海を渡るものでした。京都・東福寺開山の円爾の場合は、往路は日本を出てから10日程の航海でしたが、復路は天候に恵まれなかったため約2カ月かかり、さらに船団を組んでいた3艘のうち2艘が沈没するという、厳しい命がけの航海でした。



雪舟に私淑したといわれる雪村は、幼少時から禅寺へ入り養育を受けた。各隻には雲を呼ぶ龍と風を起こす虎を、力強い筆線で抑揚豊かに描く。波頭には雪村画に共通の表現がみられる。



りゅうこずびょうぶ せつそんしゅうけい  
龍虎図屏風 雪村周継筆  
6曲1双 紙本墨画  
日本・室町時代 16世紀  
根津美術館蔵

・放浪の画僧・雪村

同時開催展

切りとられた小袖—辻が花から広がる世界—

今も昔も服飾は流行の中心をなしてきました。桃山時代から江戸時代初期のファッションの変化を、小袖裂を通してご覧いただけます。



白地に紫と藍の濃淡が目清清しい。意匠はそれぞれ異なる技法で表されており、技巧性に富む。色調や技法の特徴から武家好みと考えられる。

おうぎまるくさばなもようきれ  
扇丸草花模様裂  
1枚  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵

展示室 5

名残の茶

一年間楽しんだ前年の茶や、初夏より慣れ親しんだ風炉はこの時期で使い納め。その名残を惜しみ、寂びた茶道具約20件を取り合わせます。



江戸時代の陶工・尾形乾山作の細水指。四面のうち、二面には茄子5つを描き、もう二面には詩文を書きつけている。

さびえ なすもんほそみずさし  
錆絵茄子文細水指  
尾形乾山作  
1口 施釉陶器  
日本・江戸時代 18世紀  
根津美術館蔵

展示室 6